

令和2年度の学校評価

本年度の重点目標	自ら進んで仲間と共に夢の実現に取り組む生徒を育成する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	地域への情報発信	・KOHTA NEWSを工夫し特別号などを発行して、本校の魅力を中学校等へ発信し、生徒募集につなげる。	・KOHTA NEWS特別号の配付校を拡大し、校内の情報発信を行った。また、中学生体験入学用も作成し、配布した。来年度も継続したい。
	周年事業に向けて同窓会と連携強化	・50周年事業に向けて、同窓会と連携し、準備を進める。記念講演や記念行事、記念誌発刊など意見交換を計画的に行い、生徒、保護者、地域住民と協力体制を確立する。	・実行委員会や各委員会を行い、計画的に行い、準備を進めている。今後の新型コロナウイルスの拡大に伴い、計画の変更も視野に入れながら考えなければならない。
教務	地域と連携した教育活動	・中学生の保護者、教員を対象とした公開授業や学校説明会を実施し、本校の教育活動の発信と意見集約の機会とする。 ・中学生体験入学を8月と11月に実施し、本校の教育活動の発信と意見集約の機会とする。	・公開授業・学校説明会には昨年度より多数の中学3年生の保護者の参加があった。学校祭準備期間ということもあり、もう少し落ち着いた時期に実施したい。 ・中学生体験入学は、8月は実施できず、11月のみとなった。参加者も昨年度と比べると減ってしまったが、案内等1年生を多く参加させることにより、交流しやすい雰囲気を作ることができた。
	授業改善	・公開授業週間など、教員がお互いに授業を参観して、情報交換する機会を設け、授業改善に関する協議を立てる。 ・ICTを活用した授業展開を研究する。	・公開授業週間では、授業の半分程度の参観に関して記録をするようにしたところ、参観率が上がったように感じる。 ・ICTに関しては、今年度中に機器の配備がされるので、今後検討したい。
生徒指導	欠席、遅刻の防止	・欠席・遅刻・早退防止キャンペーンを6月・1月に実施し、生徒の意識を高める。 ・遅刻0の日・週間を設定し、遅刻した生徒は個別に指導する。 ・全校集会・学年集会等の機会に、欠席や遅刻の状況を生徒に伝え、特に遅刻防止を訴える。 ・「遅刻記録カード」を活用し、不注意遅刻の回数に応じて、段階的指導を行う。	・臨時休校明けで生活の乱れが心配されることからスタートした年度であったが、遅刻指数自体は前年より下回っている。しかしながら、学校生活に慣れ始めた段階、特に2学期の後半から遅刻数が増加してくる傾向は例年と変わらない。生徒にも意識しやすい形で注意喚起を促していきたい。
	交通安全	・外部講師による交通安全講話を12月に実施し、生徒に安全意識を促す。 ・通年で立番指導を行い、登下校の自転車運転マナー、通学マナー向上に努める。 ・7月・12月にPT S交通安全運動を保護者、教員、生徒が協働で行い、登校する生徒に安全意識を訴える。 ・1学期、2学期に自転車点検を行い、安全管理をさせる。 ・交通事故報告の状況を生徒に伝え、事故防止を訴える。	・交通安全講話、PT S交通安全運動、立ち番指導を通じて生徒に対して交通安全意識を啓発することはできた。12月の段階で自転車同士、自転車と自動車との接触事故が10件起こっている。重大な事故にはならなかったが、見通しの悪い場所での運転、スピードの出しすぎなど、やはり自転車通学者が多いので、定期的に指導をし、注意喚起していく必要性を感じた。
	良好な人間関係の構築	・学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめや人間関係のトラブルの早期発見、早期対応に努める。 ・5月・9月・1月に実施する「困っていることの調査」の結果から情報共有・対策・問題解決等を図る。 ・問題発生時に、「いじめ・不登校対策委員会」が現場の指導チームと連携する。 ・情報モラル講座を4月(1年生向け)・9月に実施し、SNSによる人間関係のトラブルを防止する。	・困っていることの調査を年3回実施することで、いじめの未然防止、早期発見に役立てることができた。新型コロナウイルス対策をしながらの学校生活の中で生徒にも目に見えないストレスがかかっているように感じる1年であった。気軽に相談ができる雰囲気を作りつつ、生徒の気になる変化を見逃さないようにしていきたい。
進路指導	主体的学習を促す、進学指導の流れづくり	・進路研究と幸田プレゼンタイムを関連付け、3年間を通して、進路目標の明確化・深化を促す。 ・高大連携を充実させ、大学との接点を増やすことで、進学意識を高める。	・高大連携は実現することができ、2年理系生徒の将来ビジョンの形成に寄与できたと考ええる。 ・プレゼンタイムについては、臨時休業の影響で予定していたことが実施できなかった。来年度改めて挑戦したい。
	デジタルサービスを利用した進学指導	・業者の付随サービスを有効活用し、進学指導の一助とするとともに教員の負担軽減を図る。	・1, 2年生の模試受験者全員が、ベネッセのデジタルサービスを利用できるようにした。これにより、紙ベースでしかできなかったことがスマホでできるようになり、教員の労力が軽減された。
保健相談	心身の健康管理能力の向上	・生徒に働きかけ、心身の健康維持・管理・増進に努めさせる。 ・心身に問題を抱える生徒を早期に把握し、適切な相談体制で対応する。 ・特別に支援が必要な生徒は、個別に支援計画を作成し、学校と家庭の協力体制で臨む。	・新型コロナ対策の啓発物を作成し、マスク着用、手洗いの励行を進め、学校内では、十分な換気、密を避ける生活を実践させた。 ・「健康観察カード」を作成し、各学年団が日々の健康観察を欠かさず行った。 ・スクールカウンセラーと連携し、早期に個別の事案に対応することができた。

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
	教育環境の整備・美化	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別、減量化、清掃の徹底を図り、校内美化を推進する。 ・教室内整備、ワックスがけ、除草作業等を通して、生徒の環境美化意識を高める。 ・校内諸施設の状況を把握し、安全な環境づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常清掃、特別清掃、除草作業等を計画調整をしながら行い、学校内美化を推進した。 ・校内施設に関する職員の意見を集約し、概ね改善策を講じることができた。
特別活動	生徒会行事の活性化と地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事において生徒による運営を強化し、生徒同士で協力する体制を整えるよう促していく。また、地域ボランティアに積極的に取り組み、地域の活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事において、生徒会や各クラス議員、実行委員が新型コロナウイルス拡大防止策をとり、主体的に協力することができた。地域ボランティアに関しては、新型コロナウイルスの影響もあり、今年度は開催されていない。
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・他校、中学校などとの交流を深め、部活動に参加している責任感と、自己肯定感を養う。また、他の部活動に対しての理解を深め、互いに高め合える関係を構築させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響もあり、大会応援に駆け付けることができないが、顧問間で情報交換を行い、互いに切磋琢磨しながら部活動を運営できている。その結果、団体スポーツから県大会出場を決める部活動も出てきた。
第1学年	社会で必要とされる力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、身だしなみ、期日を守るなどの礼節を身につけさせる。 ・高校生らしい規則正しい生活を身につけさせ、安易な遅刻欠席早退をさせない。 ・授業規律を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や身だしなみについて、日ごろの声かけによって良好な状態を維持することができた。 ・ほとんどの生徒が提出期限を守れているが、一部遅れが目立つ生徒もいるので、遅れても必ず提出させる指導をしていく。
	進路選択と学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し、生徒の適性や志望に応じた進路目標を定められるように情報共有をする。 ・授業にしっかりと取り組み、定期考査、課題を活用し家庭での学習習慣を身につけさせ、進路選択の可能性を拡大させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部と連携し、進路ガイダンスを定期的実施したことで、生徒の視野を広げることができた。 ・学力幅が大きい、下位層だけでなく、中間層の底上げや上位者に対する指導にも力を入れている。
第2学年	社会で通用する生活習慣を学び、学校に適応させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔、挨拶、返事を大事にし、始業終業の挨拶や集会時の挨拶について指導を行なう。 ・生徒間トラブルについて、生徒同士で解決できるよう、担任を中心に適切なサポートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各担任が適切に指導を行っており、生徒の抱える問題が大きくなる前に対応できている。 ・休校明けから学校生活への意欲が下がっている生徒がいる。次の進路を意識させ、意欲的に取り組めるようにしたい。
	新しい時代に必要な基礎学力を知り、学習習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探求の時間を活用し、進学コースでは社会問題についての調べ学習を、総合コースではインターンシップを中心とした社会体験学習を行う。 ・習熟度別の学習を取り入れ、各自の目標や学力帯に適する指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、インターンシップが中止となったが、進路ガイダンス等を利用し、少しでも多く社会で働く大人と接する機会を作るように工夫した。
第3学年	社会人として必要な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事、言葉遣い等の礼儀作法や身だしなみに関する指導を継続する。 ・生徒自身に計画・運営を行わせる場面を多く取り入れ、物事に対する主体性を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀作法や身だしなみに関して、定期的な声掛けや面接指導と関連する形で生徒の意識を高めることができた。 ・学校行事の場において、生徒の主体的な活動の成果を3年間の集大成として発揮することができた。
	進路実現に向けた学力を身に付けるための学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身による進路研究と担任面談を組み合わせ実施し、志望先に向けた個別の学習計画を主体的に考えさせる。 ・習熟度別授業や個別指導を行い、目的意識を持って学習に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談の中で志望校決定や受験方法の検討を行うことができた。進路通信を定期的に発行し、情報提供や意識付けを行うことができた。 ・課外授業については実施方法を工夫できたが、個別指導の方法に関してより高い学習効果を生む方法を検討する必要がある。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング導入等による授業改善をする。 ・教育活動全般でキャリア教育活動を推進する。 ・誰もが行きたくなる学校づくりのため、地域連携に努め、「チーム幸田高校」を形成する。 ・勤務時間の適正な管理を行い、長時間労働における健康障害の防止を図る。 	